

序章	長期構想の検討概要
第1章	港湾及び背後地域の現況
第2章	目指すべき方向性
第3章	港湾への要請と課題
第4章	境港が今後担うべき役割
第5章	境港の長期構想における施策の展開方向
第6章	将来の空間利用計画

境港の将来像と施策の展開方向

将来像

施策の展開方向

物流・産業

【将来像】北東アジアとのゲートウェイとなる中国地方日本海側拠点港湾
 目標1 北東アジアとの国際定期航路（コンテナ・フェリー）サービスの充実による北東アジアゲートウェイ機能の形成
 目標2 背後圏の産業活動を支え、地域の発展に寄与する港湾の形成

戦略 1

中国地方の国際競争力強化に資する日本海側国際海上コンテナ輸送拠点機能の拡張

戦略 2

背後圏産業を支えるバルク輸送拠点機能の再編

戦略 3

外内貿フェリー・RORO輸送拠点機能の集約（既対応中）

人流・賑わい

【将来像】魅力ある山陰観光と連携した交流拠点港湾
 目標3 背後圏と連携したクルーズ拠点、観光客や市民が親しめる親水空間・賑わい空間の形成
 目標4 レクリエーションやマリンスポーツの振興に寄与する港湾の形成

戦略 4

中海・宍道湖・大山圏域観光を支える海上アクセス拠点機能の強化

戦略 5

豊かな自然環境を活用したレクリエーション・マリンスポーツ拠点機能の強化

安全・安心

【将来像】国土の強靱化を支える境港
 目標5 市民生活や背後圏企業のBCPを支える港湾の形成
 目標6 中国地方の広域バックアップ機能を担う港湾の形成

戦略 6

国土の強靱化を支える港湾機能の強化

環境

【将来像】豊かな自然環境と共存し、環境関連産業を支える港湾
 目標7 豊かな自然環境と共存し、地域の魅力向上に寄与する港湾の形成
 目標8 持続可能な循環型社会を支える環境先進港湾の形成

戦略 7

リサイクル産業や再生可能エネルギー産業を支え、自然環境の保全・再生を推進する環境先進港湾機能の強化

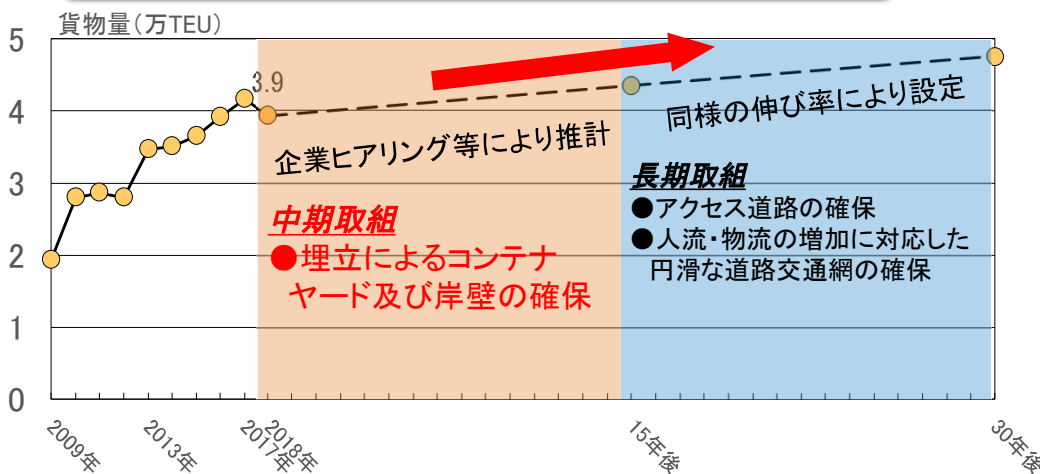
境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 1 中国地方の国際競争力強化に資する日本海側国際海上コンテナ輸送拠点機能の拡張

境港を取り巻く要請・課題に対する港湾計画及び長期構想での対応

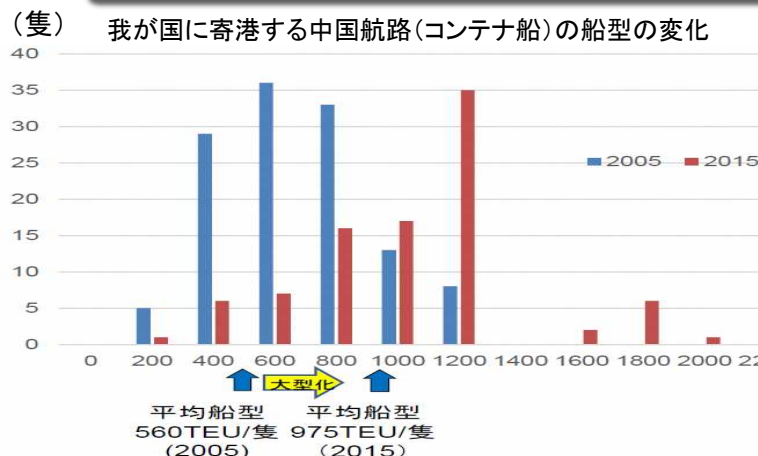
➤ **コンテナ取扱個数の長期展望**
コンテナ貨物取扱量は今後も増加が見込まれる

① 新たな用地及び岸壁確保が必要



➤ **コンテナ船の大型化の傾向**
コンテナ船の大型化が進展

② 長期的には船舶の大型化への対応が必要



境港においても
一隻当たりの
平均総トン数は
2009→2018で
1.1倍
と着実に大型化
が進展

資料:国土交通省「港湾の中長期政策PORT2030～参考資料編～」に加筆

➤ **既存航路の輻輳**

- ・客船と貨物船等の重複
- ・第1航路と第2航路利用による重複
- ・航路幅員の不足



③ 航路の見直しによる安全性確保が必要

➤ **施設整備に付随して対応していくべき事項**

- リーフア電源の増設
- ガントリークレーンの増設
- 航路誘致活動
- AI やIoT を活用した荷役の効率化
- 境港－米子間の高速道路整備
- 境港－島根間の道路網整備
- タグボートの円滑な利用を図るための方策検討

境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 1 中国地方の国際競争力強化に資する日本海側国際海上コンテナ輸送拠点機能の拡張

①海面処分用地埋立による岸壁の確保

- ・岸壁水深(-14m)の確保
- ・コンテナヤードの確保
- ・老朽化した荷役機械等の更新
- ・ガントリークレーン、リーファー電源の増設

②埠頭の再編

- ・コンテナ、バルク貨物の棲み分け

③円滑な道路交通網の確保

- ・人流・物流の増加に対応

④新規航路・泊地の確保

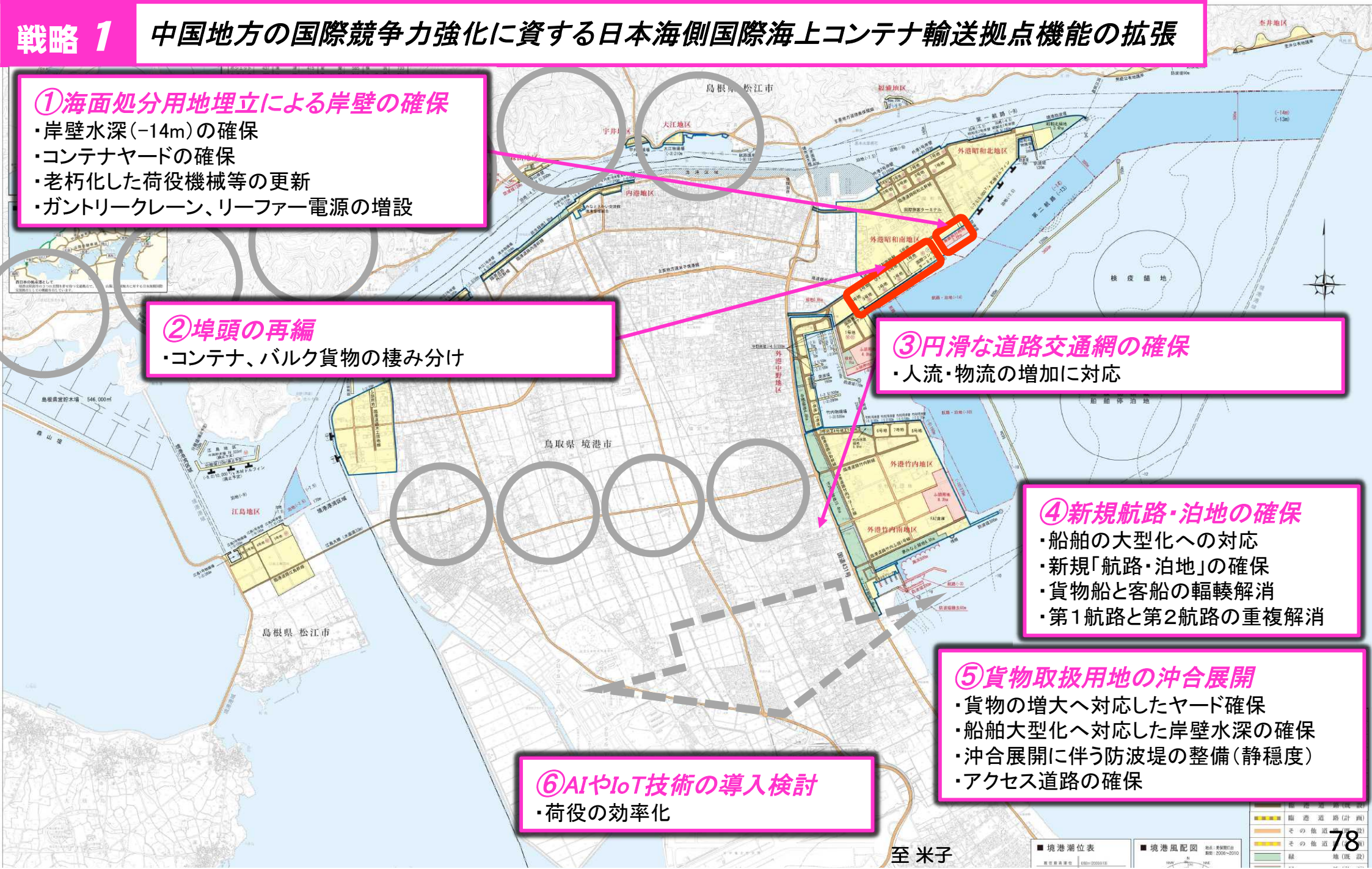
- ・船舶の大型化への対応
- ・新規「航路・泊地」の確保
- ・貨物船と客船の輻輳解消
- ・第1航路と第2航路の重複解消

⑤貨物取扱用地の沖合展開

- ・貨物の増大へ対応したヤード確保
- ・船舶大型化へ対応した岸壁水深の確保
- ・沖合展開に伴う防波堤の整備(静穏度)
- ・アクセス道路の確保

⑥AIやIoT技術の導入検討

- ・荷役の効率化



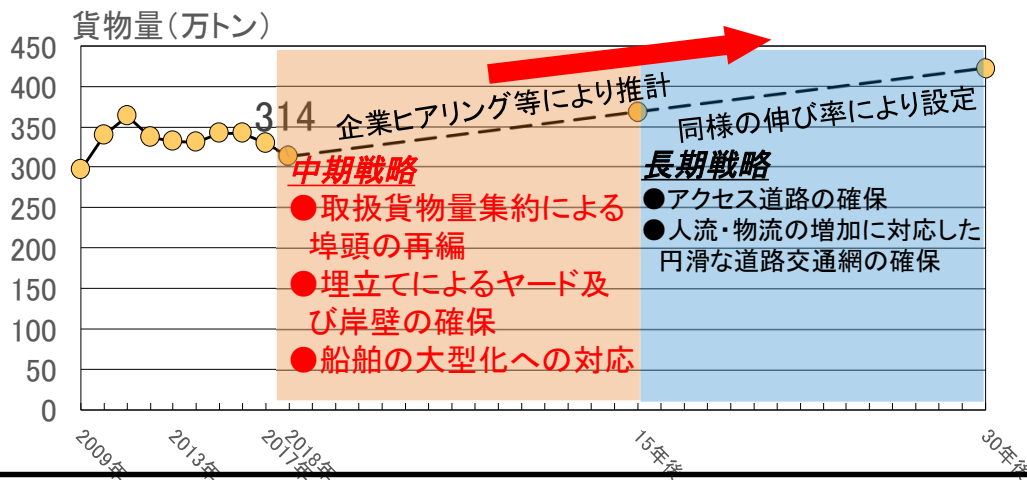
境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 2 背後圏産業を支えるバルク輸送拠点機能の再編

境港を取り巻く要請・課題に対する港湾計画及び長期構想での対応

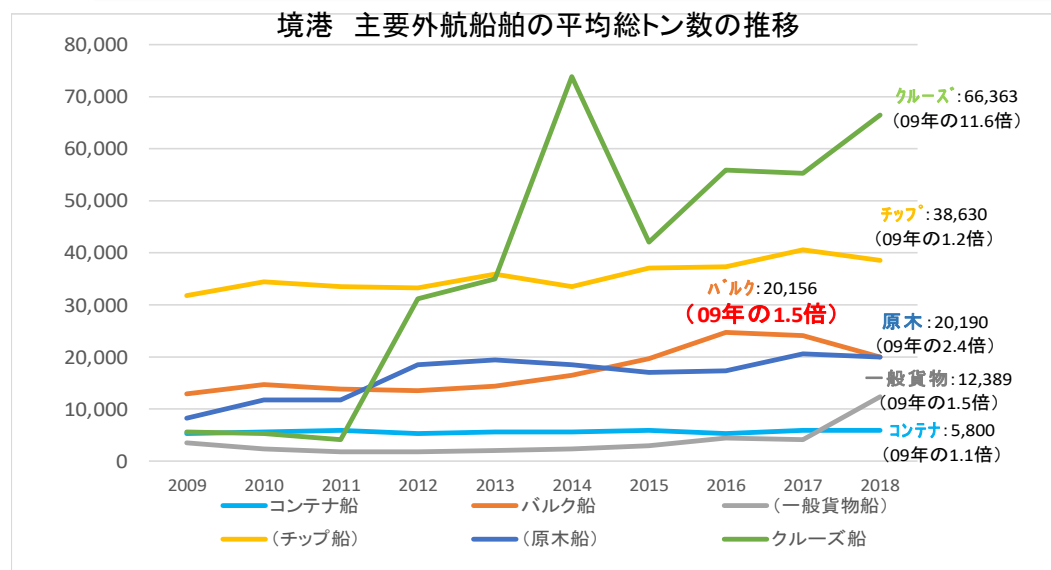
➤ **バルク貨物の長期展望**
バルク貨物取扱量は今後も増加が見込まれる

① 新たな用地及び岸壁確保が必要



➤ **バルク船の大型化の傾向**
バルク船の大型化が進展

② 長期的には船舶の大型化への対応が必要



出典: 境港港湾統計年報、H29,H30船舶明細より作成

➤ **既存航路の輻輳**

- ・客船と貨物船等の重複
- ・第1航路と第2航路利用による重複
- ・航路幅員の不足



③ 航路の見直しによる安全性確保が必要

➤ **施設整備に付随して対応していくべき事項**

- 倉庫用地の確保
- 境港－米子間の高速道路整備
- 境港－島根間の道路網整備
- タグボートの円滑な利用を図るための方策検討

境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 3 外内貿フェリー・RORO輸送拠点機能の集約

境港を取り巻く要請・課題に対する港湾計画及び長期構想での対応

- シャーシ相互通行による物流の効率化
 - 相互通行シャーシを利用した一貫輸送により、リードタイム短縮と国内在庫の縮減による物流コスト削減などの効果が確認されている
- 脆弱な日本海側海上輸送網への対応
 - 日本海側に位置する境港の機能充実への期待
 - ✓ 船舶へのモーダルシフトによるドライバー不足の解消
 - ✓ 物流の効率化による中海・宍道湖・大山圏域及び中国地方の産業競争力の強化
 - ✓ 大規模災害太平洋側輸送網のバックアップ機能
- 内航サービス拡大の動き
 - 長距離トラック輸送の代替として、内航フェリー・RORO輸送の利用に注目

- ① 竹内南地区複合一貫輸送ターミナルの活用(令和2年4月供用予定)
 - ② 内航RORO船の定期航路化
- ⇒ 国際定期貨客船(DBSクルーズフェリー)と国内RORO船接続にも対応

➤ 既存航路の輻輳

- ・客船と貨物船等の重複
- ・第1航路と第2航路利用による重複
- ・航路幅員の不足

③ 航路の見直しによる安全性確保が必要



竹内南地区で整備中の複合一貫輸送ターミナル
内貿ユニットロード網拡充による効果

- ・長距離陸上輸送の解消
- ・災害時のリダンダンシー確保
- ・複数の荷主間の共同輸送の促進
- ・国内貨物と国内静脈貨物の積み合わせによる航路拡大・強化



資料:国土交通省中国地方整備局「産業競争力強化のための物流の連携強化、生産性向上及び物流ネットワークの強靱化に関する政策提言(案)補足資料」に加筆

➤ 施設整備に付随して対応していくべき事項

- タグボートの円滑な利用を図るための方策検討
- 境港－米子間の高速道路整備
- 境港－島根間の道路網整備

境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 3 外内貿フェリー・RORO輸送拠点機能の集約

■各都市へのアクセス

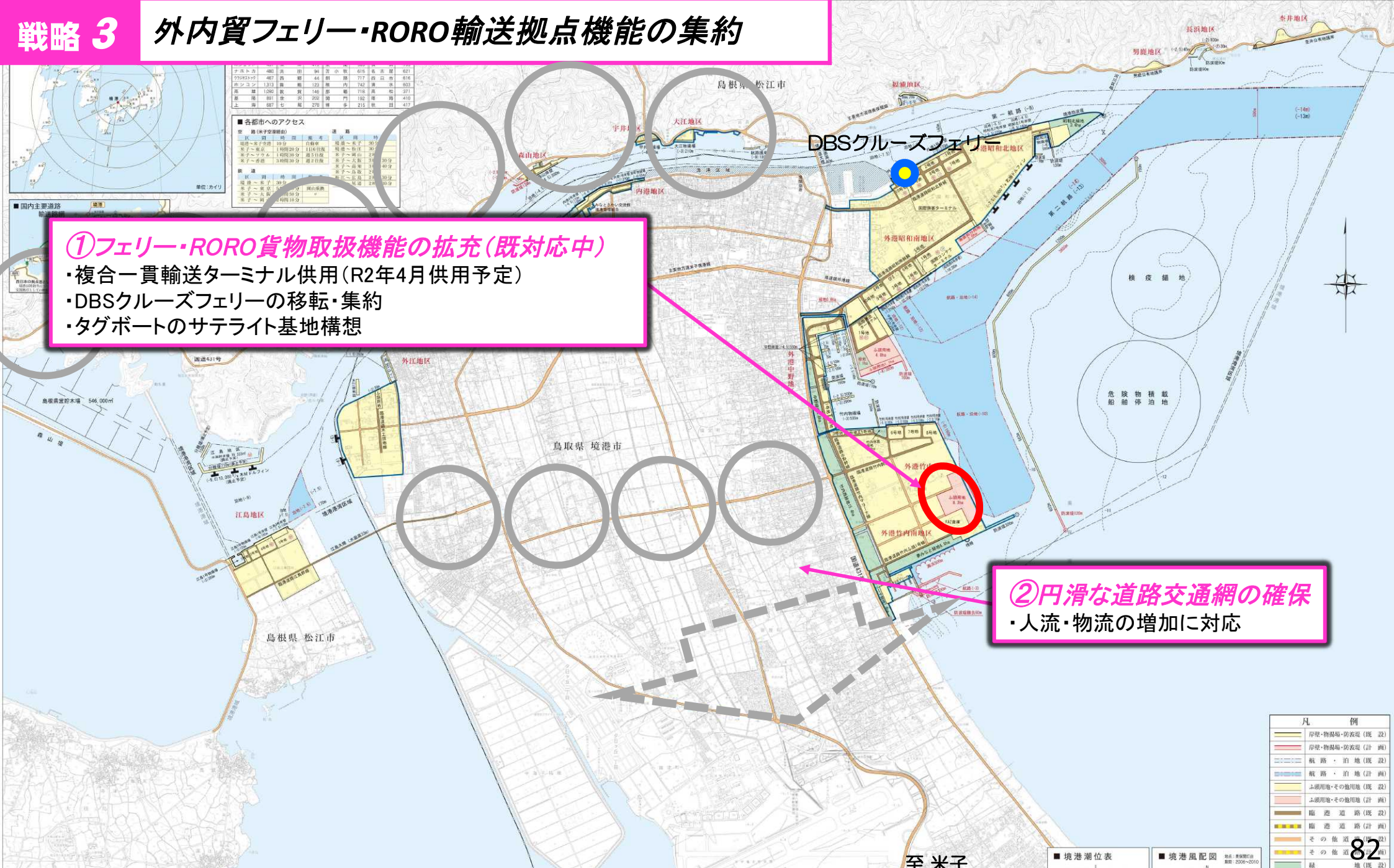
路線(米子空港経由)	区間	所要時間	運賃
航空	境港～米子空港	19分	1,000円
	米子～境港	19分	1,000円
	米子～米子	19分	1,000円
鉄道	境港～米子	39分	1,000円
	米子～境港	39分	1,000円
	米子～米子	39分	1,000円

①フェリー・RORO貨物取扱機能の拡充(既対応中)

- ・複合一貫輸送ターミナル供用(R2年4月供用予定)
- ・DBSクルーズフェリーの移転・集約
- ・タグボートのサテライト基地構想

②円滑な道路交通網の確保

- ・人流・物流の増加に対応



境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 4

中海・宍道湖・大山圏域観光を支える海上アクセス拠点機能の強化

境港を取り巻く要請・課題に対する港湾計画及び長期構想での対応

➤ 境港で伸びるクルーズ旅客数・寄港回数

- 2018年の境港への寄港回数は37回
- ✓ 8万トン以上の大型船の寄港は、前年の約2倍に増加
- ✓ 乗客数は、6万1千人と過去最高であった2017年並み
- ✓ 外国人乗客は5.2万人で過去最高を記録

➤ インバウンド観光客への対応

- 広域連携DMO山陰広域観光の推進を目的に「縁の道～山陰～」の形成を推進
- 境港は主要ゲートウェイ施設として位置づけられ、広域観光を支えるインフラとしての役割に期待



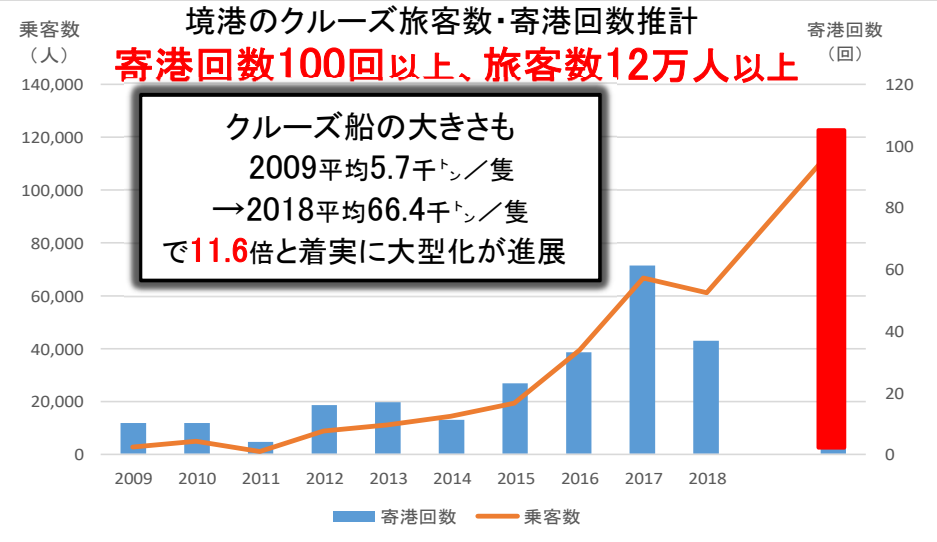
①竹内南地区複合一貫輸送ターミナルの活用
(令和2年春供用予定)

➤ 既存航路の輻輳

- ・客船と貨物船等の重複
- ・第1航路と第2航路利用による重複
- ・航路幅員の不足



③航路の見直しによる安全性確保が必要



➤ クルーズ船の長期展望

- 国の「明日の日本を支える観光ビジョン」のもと、山陰の魅力ある広域観光の強みを生かし、更なる発展を目指す。



②更なる受入機能の拡充が必要

➤ 施設整備に付随して対応していくべき事項

- 公共交通機関等を利用した域内交通体系の構築
- 境港－米子間的高速道路整備
- 境港－島根間の道路網整備
- タグボートの円滑な利用を図るための方策検討

境港の長期構想における施策の展開方向

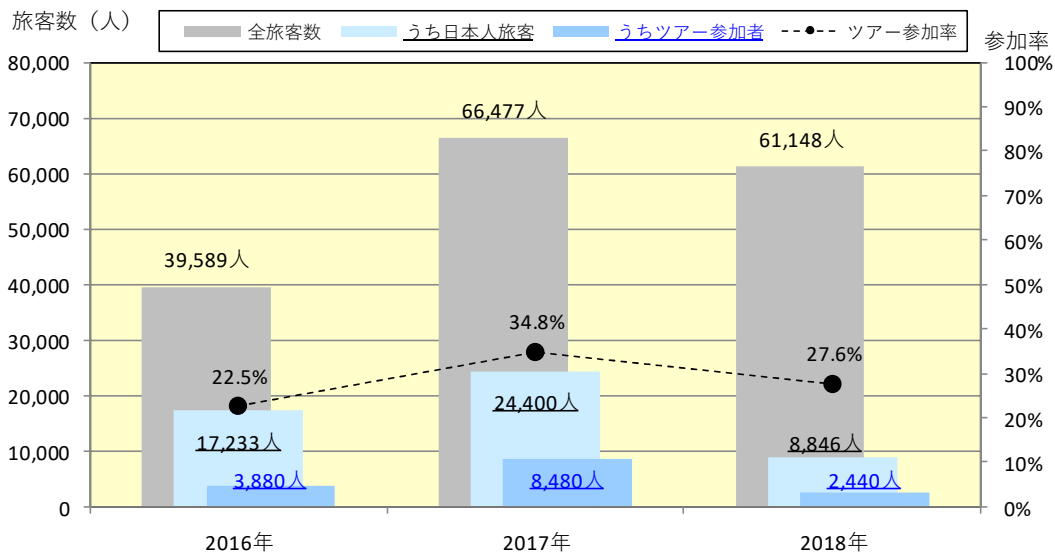
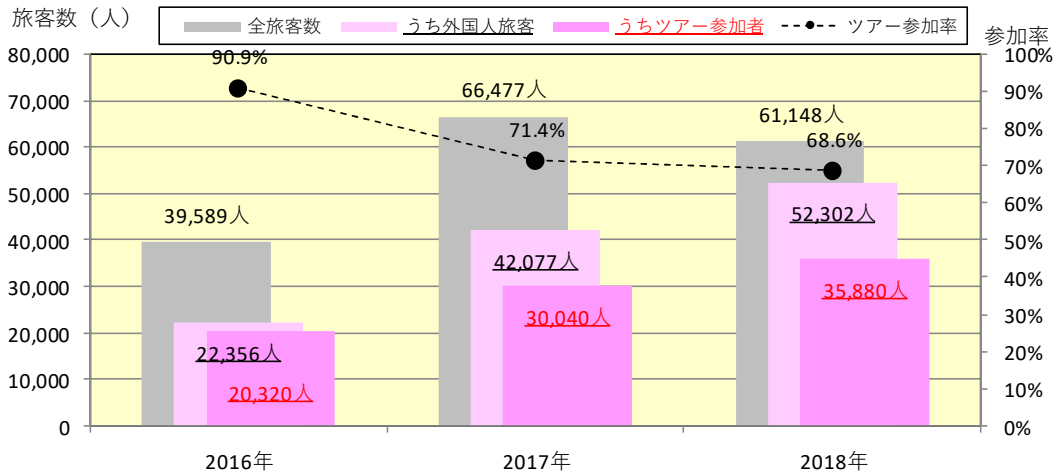
補足説明資料

戦略 4

中海・宍道湖・大山圏域観光を支える海上アクセス拠点機能の強化

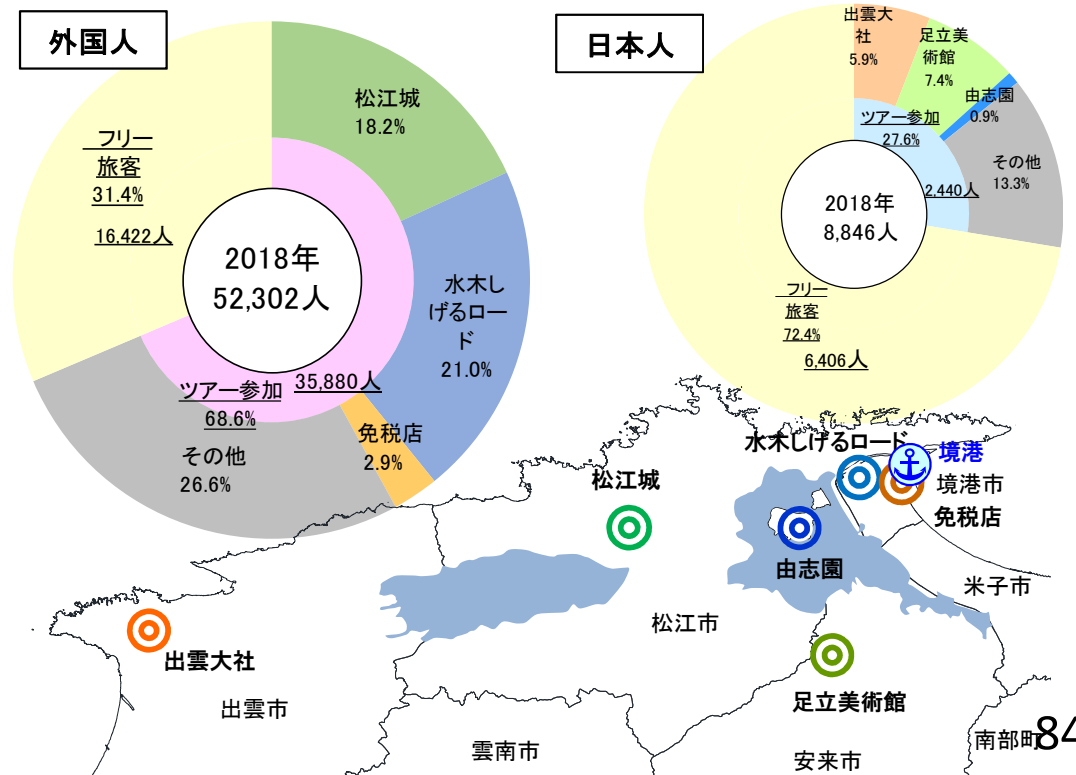
クルーズ旅客の推移とツアー等動向

- ・外国人ツアー参加者数は増加傾向にあるものの、**ツアー参加率は減少しフリー旅客の割合が増加**している。
- ・ツアーの主な行先では、松江城、水木しげるロードなどが多く、免税店を行程に含むツアーは減少している。
- ・日本人ツアー参加率は外国人に比べ半分以下であり、**フリー旅客の割合が高い傾向**にある。
- ・出雲大社、由志園、足立美術館を行き先とするツアーが組まれている。



地域の賑わいづくりによる域内ツーリズムの構築と併せ、公共交通機関等を利用した域内交通体系の構築が必要

外国人・日本人旅客のツアー行先(2018年)



境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 4

中海・宍道湖・大山圏域観光を支える海上アクセス拠点機能の強化

①貨客船ターミナル(R2年4月供用予定)を活用した情報発信

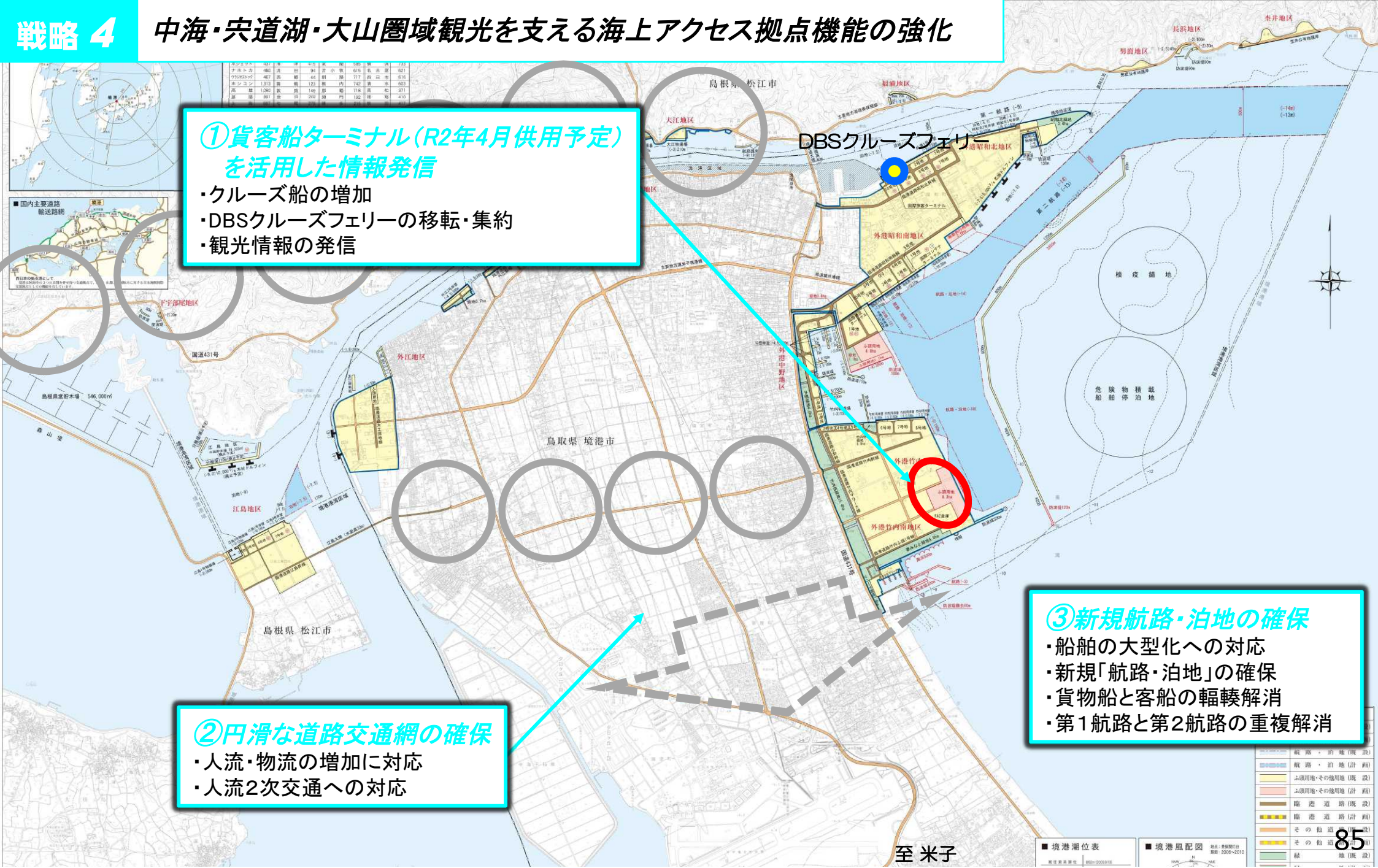
- ・クルーズ船の増加
- ・DBSクルーズフェリーの移転・集約
- ・観光情報の発信

②円滑な道路交通網の確保

- ・人流・物流の増加に対応
- ・人流2次交通への対応

③新規航路・泊地の確保

- ・船舶の大型化への対応
- ・新規「航路・泊地」の確保
- ・貨物船と客船の輻輳解消
- ・第1航路と第2航路の重複解消



ホシエド	437	津	410	家	585	津	732
ナホトガ	480	津	343	家	619	津	621
アサヒ	487	津	443	家	717	津	816
ホシムネ	1313	津	123	内	742	津	633
高 津	1265	津	146	津	718	津	371
津	681	津	61	津	77	津	410

境港の長期構想における施策の展開方向

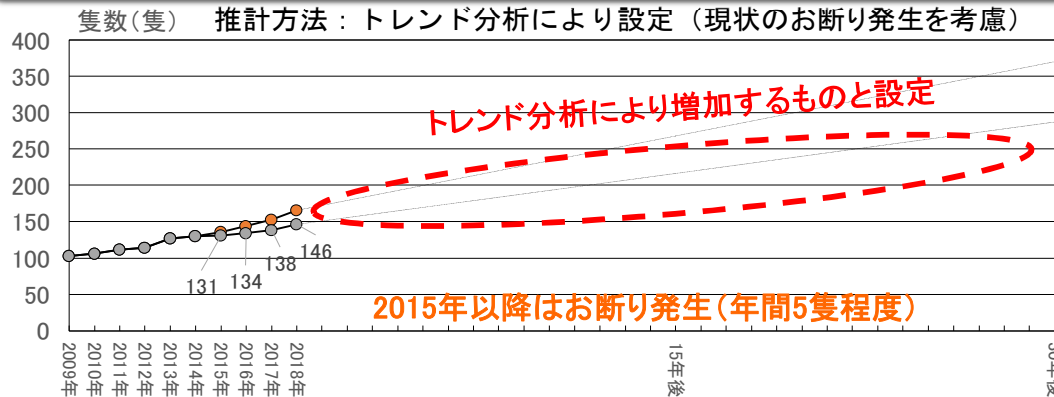
戦略 5

豊かな自然環境を活用したレクリエーション・マリンスポーツ拠点機能の強化

境港を取り巻く要請・課題に対する港湾計画及び長期構想での対応

- 境港公共マリーナのPB隻数の展望
 - マリーナの港湾計画での位置づけ
 - ✓ 昭和55年の境港港湾計画で新規で位置付け
 - ✓ 平成17年の港湾計画改訂時に計画見直し
 - マリーナの現状
 - ✓ マリーナにおける係留・保管隻数は近年増加傾向
 - ✓ 水上保管可能隻数(PB)は満船状態
 - ✓ 近年は新規利用者を断っている状況
 - ✓ 一方、2019レーザー級世界選手会大会が開催され世界63の国と地域から約300名のトップセーラーが集結
 - ✓ 2033年には鳥取国体、2029年には島根国体を控える

① マリーナ利用者の需要取込み、及びヨットの聖地として境港公共マリーナの発展が必要



- 弓ヶ浜サイクリングコースの活用(整備中)
 - 「境夢みなとターミナル」から、「日野川河口(米子市皆生温泉)」までの約16kmの整備が実施中
 - 全線供用開始は、令和2年3月の予定

② 新名所「境夢みなとターミナル」及び公共マリーナも含めた一体的活用が必要

- 中海(江島地区周辺)の有効活用

③ レクリエーション等に寄与する既存ストックの有効活用が必要



- 施設整備に付随して対応していくべき事項
 - 公共マリーナの老朽化した管理棟の建替え、移転
 - 沖合展開も睨んだ魚釣り施設の整備
 - 他のレクリエーション施設との連携検討
 - 一般交通船舶の安全確保

境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 5

豊かな自然環境を活用したレクリエーション・マリンスポーツ拠点機能の強化



④ 中海 (江島地区周辺) の有効活用

- ・中海周遊クルーズ等、海洋性レクリエーションに資する需要の発掘
- ・カヌー、シーカヤックやSUP等のマリンスポーツ会場としての活用

① マリーナの沖合展開

- ・プレジャーボート保管機能 (水面/陸置) の強化
- ・艇種別利用形態を考慮した配置計画
- ・老朽化した管理棟の建替え、移転
- ・マリーナ港口の堆砂解消

② 海浜の造成

- ・親水性のある海浜確保
- ・沖合展開も睨んだ魚釣り施設の整備

③ 弓ヶ浜サイクリングコースの整備 (R2年3月全線供用予定)

- ・貨客船ターミナルの供用開始に併せて、境港から皆生までの海岸線を走るルートが完成 (全長約16km)
- ・竹内西緑地に遊歩道等の整備
- ・マリーナと共用利用可能な施設の整備



凡 例	
	岸壁・物揚場・防波堤 (既 設)
	岸壁・物揚場・防波堤 (計 画)
	航路・泊地 (既 設)
	航路・泊地 (計 画)
	ふ頭用地・その他用地 (既 設)
	ふ頭用地・その他用地 (計 画)
	臨港 道路 (既 設)
	臨港 道路 (計 画)
	その他 道路 (既 設)
	その他 道路 (計 画)
	緑 地 (既 設)
	緑 地 (計 画)

境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 6 国土の強靱化を支える港湾機能の強化

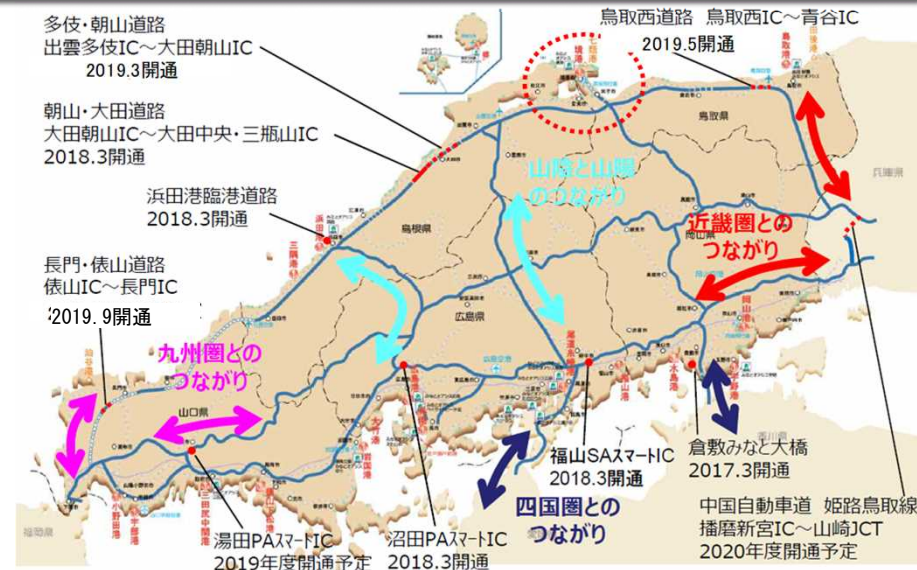
境港を取り巻く要請・課題に対する港湾計画及び長期構想での対応

➤ 大規模災害への対応

- 中国地方では高規格道路の整備が進み、山陰と山陽とのつながりが強まる
- 平成30年7月豪雨の際は、山陽側の物流の大動脈(鉄道、道路)が分断され、改めて海上代替輸送の活用に期待が高まる



① 境港の新規整備施設及び既存ストックをフル活用したりダンダンシーの確保が必要



➤ 進むインフラ老朽化への対応

- 今後、高度経済成長期に集中的に整備した施設の老朽化が進行
- 全国の係留施設では、建設後50年以上の施設が2034年には約60%に急増とすると予測
- 境港においては、2015.2時点で、整備後30年以上の岸壁が約6割を占め、確実に老朽化は進行
- 航路・泊地の水域施設や岸壁等の係留施設についても適切な維持浚渫による水深確保が必要。



② 施設の機能を維持・更新するための適切な維持管理が必要

➤ 施設整備に付随して対応していくべき事項

- 境港BCPにおける除雪対応の位置づけ
- 迅速な代替輸送に対応するための体制づくり
- ICTの利活用によるインフラの維持管理の効率化
- AI, IoTを活用した荷役等の効率化
- 既存施設の有効活用・利用転換による貨物の集約化
- 境港～米子間の高速道路整備
- 境港～島根間の道路網整備
- タグボートの円滑な利用を図るための方策検討

資料: 国土交通省中国地方整備局「産業競争力強化のための物流の連携強化、生産性向上及び物流ネットワークの強靱化に関する政策提言(案)補足資料」に加筆

地勢的特徴を持つ中国地方～山陰と山陽とのつながり

境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 6

国土の強靱化を支える港湾機能の強化

港

①コンテナターミナルの拡張

- ・大規模災害時における港湾機能の早期回復
- ・コンテナ貨物増大に対応できる新規バースの整備
- ・災害時対応に備えた耐震強化岸壁(幹線貨物輸送)

④燃油供給機能の確保

- ・石油製品の早期出荷
(東西オイルターミナル境港油槽所)

②耐震強化岸壁の整備 (既対応済)

- ・災害時対応に備えた耐震強化岸壁
(緊急物資輸送)(整備済み)

③災害時輸送網の確保

- ・広域輸送及びリダンダンシーの確保

⑥AIやIoT, ICT技術の導入検討

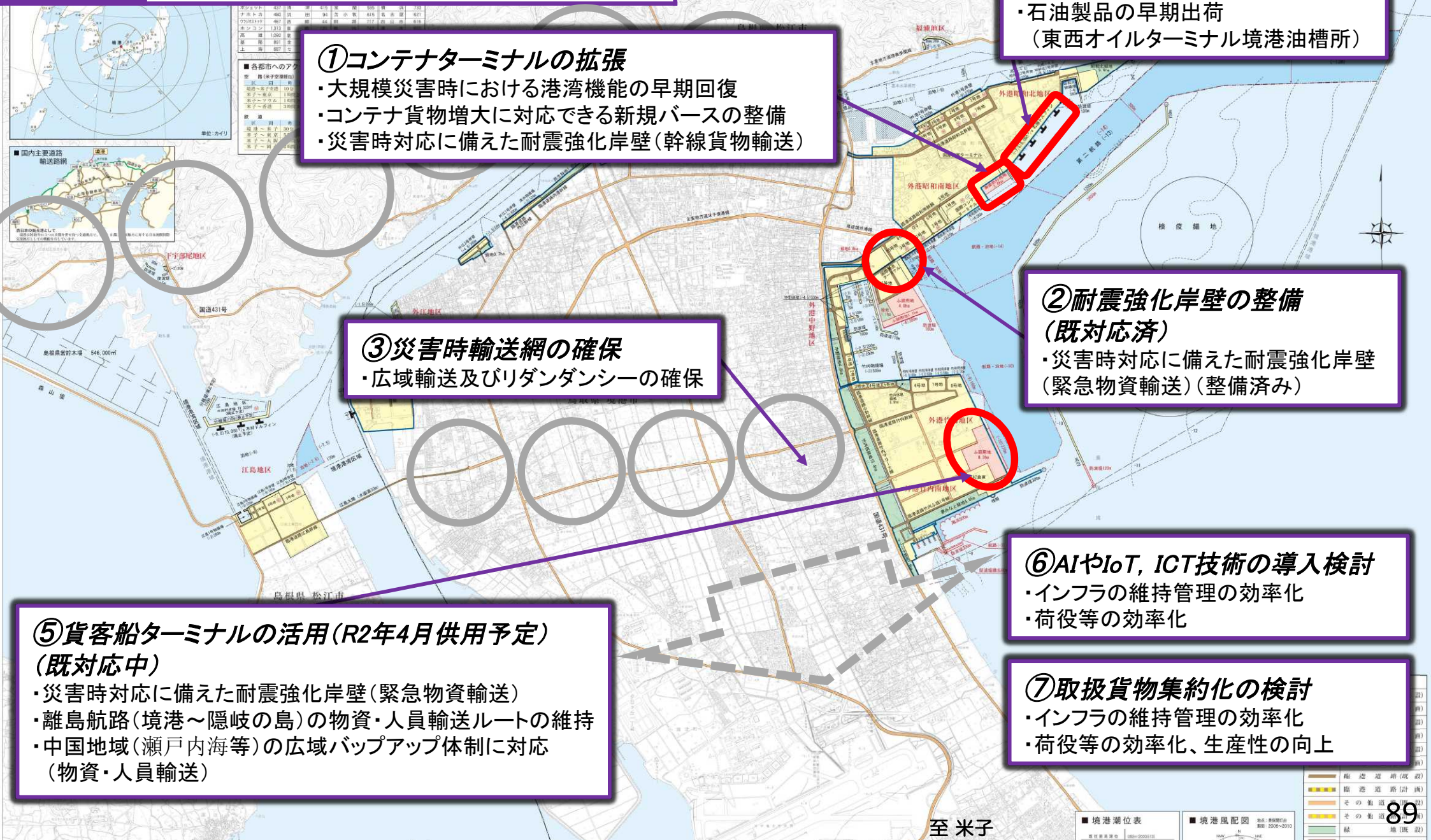
- ・インフラの維持管理の効率化
- ・荷役等の効率化

⑤貨客船ターミナルの活用(R2年4月供用予定) (既対応中)

- ・災害時対応に備えた耐震強化岸壁(緊急物資輸送)
- ・離島航路(境港～隠岐の島)の物資・人員輸送ルート維持
- ・中国地域(瀬戸内海等)の広域バップアップ体制に対応
(物資・人員輸送)

⑦取扱貨物集約化の検討

- ・インフラの維持管理の効率化
- ・荷役等の効率化、生産性の向上



境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 7

リサイクル産業や再生可能エネルギー産業を支え、自然環境の保全・再生を推進する環境先進港湾機能の強化

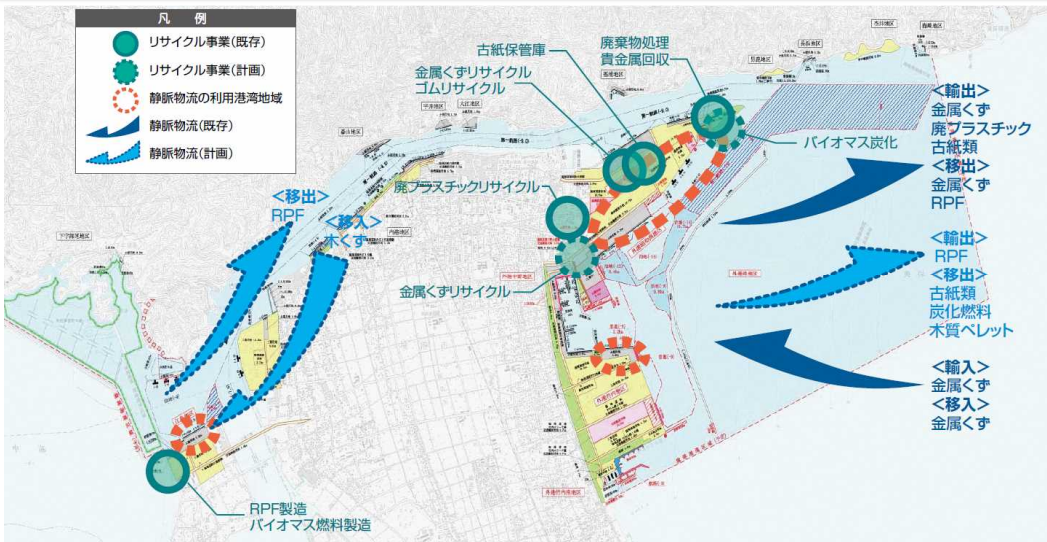
境港を取り巻く要請・課題に対する港湾計画及び長期構想での対応

➤ 循環資源物流の促進

- 境港背後には循環型ビジネスモデルを推進している国内有数の製紙工場が立地
- RPF燃料や廃タイヤチップなどの廃棄物エネルギー燃料製造や木くずチップ製造、バイオマス燃料製造などのリサイクル産業が集積
- 山陰地区の金属くずの中国・韓国への輸出拠点港



①リサイクルポート機能を拡大し、企業誘致を進めることでリサイクル産業の更なる活性化が必要



資料:リサイクルポート推進協議会パンフレット

境港におけるリサイクル資源の取り扱い概況

➤ 境港背後圏に集積するバイオマス発電所

- 境港背後圏には複数のバイオマス発電所が稼働しており、燃料(PKS(パーム椰子殻))の輸入量が増加
- 外港昭和北地区及び米子市和田浜工業団地内に新規バイオマス発電所が稼働する予定
- 木質ペレットやPKSの輸入約35万t~40万t/年の貨物増が見込まれる



②リサイクル産業や再生可能エネルギー産業を支える施設整備・利用者ニーズへの対応が必要

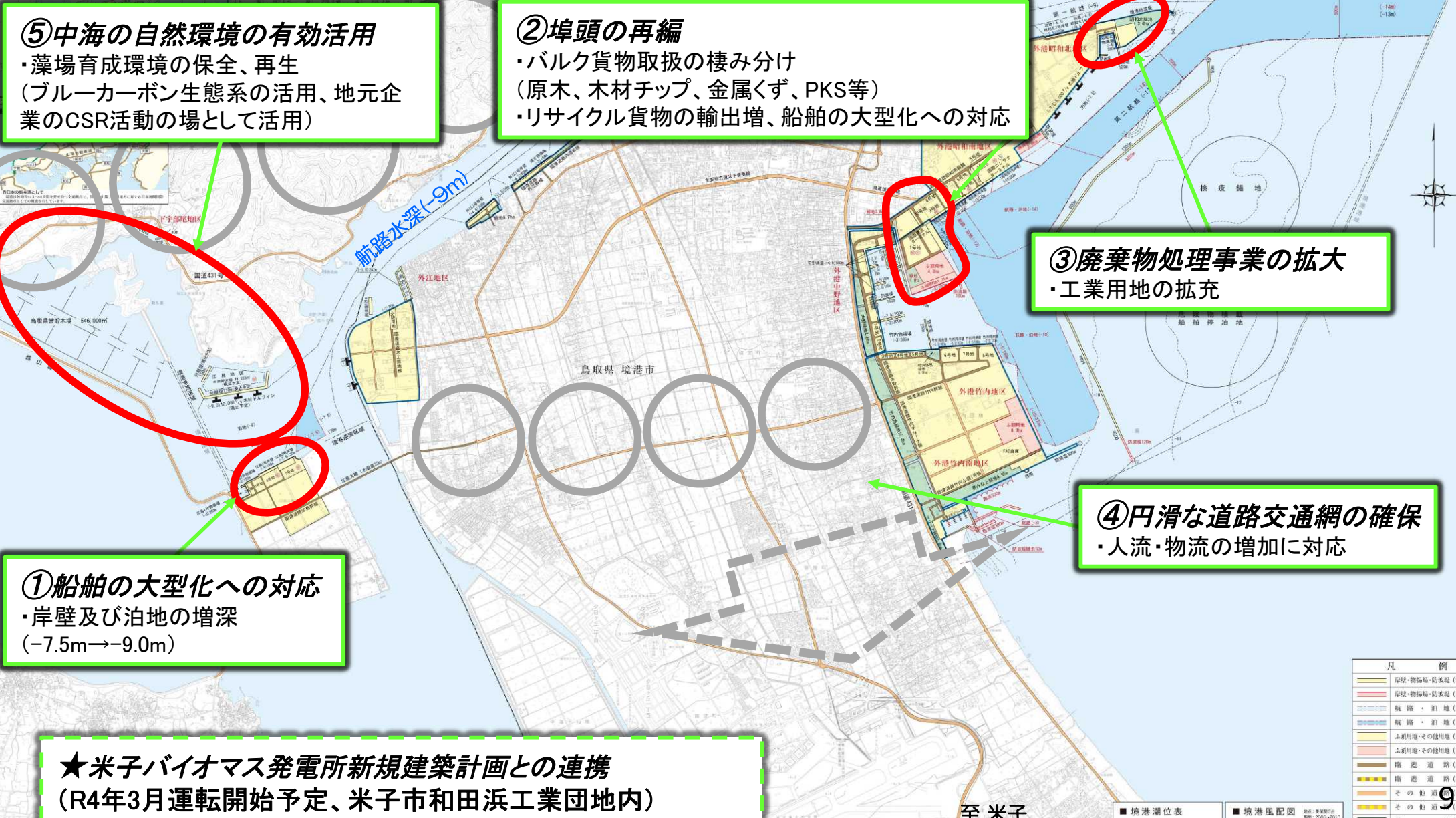
➤ 施設整備に付随して対応していくべき事項

- 再生可能エネルギー産業の港湾利用ニーズへの対応
- リサイクル資源の取り扱い機能の強化
- 企業の環境活動に必要な行政支援の検討
- 藻場育成環境の保全、再生

境港の長期構想における施策の展開方向

戦略 7

リサイクル産業や再生可能エネルギー産業を支え、自然環境の保全・再生を推進する環境先進港湾機能の強化



⑤ 中海の自然環境の有効活用
 ・藻場育成環境の保全、再生
 (ブルーカーボン生態系の活用、地元企業のCSR活動の場として活用)

② 埠頭の再編
 ・バルク貨物取扱の棲み分け
 (原木、木材チップ、金属くず、PKS等)
 ・リサイクル貨物の輸出増、船舶の大型化への対応

③ 廃棄物処理事業の拡大
 ・工業用地の拡充

④ 円滑な道路交通網の確保
 ・人流・物流の増加に対応

① 船舶の大型化への対応
 ・岸壁及び泊地の増深
 (-7.5m→-9.0m)

★米子バイオマス発電所新規建築計画との連携
 (R4年3月運転開始予定、米子市和田浜工業団地内)

凡 例	
	岸壁・物揚場・防波堤(既設)
	岸壁・物揚場・防波堤(計画)
	航路・泊地(既設)
	航路・泊地(計画)
	ふ頭用地・その他用地(既設)
	ふ頭用地・その他用地(計画)
	臨港道路(既設)
	臨港道路(計画)
	その他道路(既設)
	その他道路(計画)
	緑地(既設)

各地区における施策の展開方向と取組時期

地区別の施策の展開方向

短期: ~5年

中期: 5年~15年

長期: 15年~30年

継続的・持続的な取組

地区	戦略	施策	取組内容	取組時期				
				既存	短期	中期	長期	
外港昭和 南地区	戦略1	日本海側国際 海上コンテナ 輸送拠点機能 の拡張	埋立によるコン テナヤード確 保及び岸壁の 整備	・船舶の大型化への対応(岸壁)		■		
				・コンテナヤードの確保		■		
				・ガントリークレーン、リーファー電源の 増設		■		
				・老朽化した荷役機械等の更新		┌───┐		
				・航路誘致活動		┌───┐		
				・AIやIoTを活用した荷役の効率化		┌───┐		
	戦略2	バルク輸送拠 点機能の再編	取扱貨物集約 によるふ頭の 再編	・バルク貨物取扱の棲み分け (原木、木材チップ、金属くず、PKS等)		■		
				・老朽化した荷役機械等の更新		┌───┐		
	戦略7	環境先進港湾 機能の強化	耐震強化岸壁 の活用と確保	・船舶の大型化への対応		■		
	戦略6	国土強靱化を 支える機能強 化		・岸壁の耐震化	■	■		

各地区における施策の展開方向と取組時期

地区別の施策の展開方向

短期: ~5年

中期: 5年~15年

長期: 15年~30年

継続的・持続的な取組

地区	戦略	施策	取組内容	取組時期				
				既存	短期	中期	長期	
外港竹内 南地区	戦略3	フェリー・RORO船輸送拠点機能の集約	フェリー・RORO取扱機能の拡充	・複合一貫輸送ターミナル	■			
				・DBSクルーズフェリーの移転・集約	■			
	戦略4	海上アクセス拠点機能の強化	クルーズ船受入機能の拡充	・船舶の大型化への対応(岸壁、航路・泊地)		■		
				・係留・保管施設の拡張		■		
	戦略5	レクリエーション・マリンスポーツ拠点機能の強化	小型船係留・保管機能の強化	・航路水深の維持		■		
				・海浜の形成によるレクリエーション空間の創出		■		
			親水性の創出		■			
戦略6	国土強靱化を支える機能強化	魚釣り施設の拡張	・魚釣り施設の確保		■			
			・岸壁の耐震化		■			
		発災害時貨物取扱機能の確保		■				

各地区における施策の展開方向と取組時期

地区別の施策の展開方向

短期: ~5年

中期: 5年~15年

長期: 15年~30年

継続的・持続的な取組

地区	戦略		施策	取組内容	取組時期			
					既存	短期	中期	長期
外港中野地区	戦略2	バルク輸送拠点機能の再編	埋立によるヤード及び岸壁の確保	・バルク貨物取扱の棲み分け (原木、木材チップ、金属くず、PKS等)		■		
	戦略7	環境先進港湾機能の強化	取扱貨物集約によるふ頭の再編	・リサイクル貨物需要への対応		■		
・船舶の大型化への対応					■			
江島地区	戦略2	バルク輸送拠点機能の再編	船舶の大型化への対応	・船舶の大型化への対応 (岸壁)		■		
外港昭和北区	戦略6	国土強靱化を支える機能強化	取扱貨物集約化の検討	・既存施設の有効活用・利用転換		┌───┐	┌───┐	┌───┐
			燃油供給機能の確保 (境港BCP)	・石油製品の早期出荷		■		
	戦略7	環境先進港湾機能の強化	廃棄物処理機能の拡張	・土地利用変更		■		

各地区における施策の展開方向と取組時期

地区別の施策の展開方向

短期: ~5年

中期: 5年~15年

長期: 15年~30年

継続的・持続的な取組

地区	戦略		施策	取組内容	取組時期			
					既存	短期	中期	長期
内港地区	戦略6	国土強靱化を支える機能強化	取扱貨物集約化の検討	・インフラの維持管理の効率化				
				・既存施設の有効活用・利用転換				
	戦略5	レクリエーション・マリンスポーツ拠点機能の強化	歴史・文化の有効活用	・漁港との連携				
				・伝統、歴史の保存				
外港竹内地区・外江地区	戦略6	国土強靱化を支える機能強化	取扱貨物集約化の検討	・インフラの維持管理の効率化				
				・既存施設の有効活用・利用転換				
その他 (中海(江島地区周辺))	戦略5	レクリエーション・マリンスポーツ拠点機能の強化	既存ストックの有効活用	・海洋性レクリエーションの発掘				
				・マリンスポーツ会場の発掘				
	戦略7	環境先進港湾機能の強化	中海の自然環境の有効活用	・藻場育成環境の保全、再生				

各地区における施策の展開方向と取組時期

地区別の施策の展開方向

短期: ~5年

超長期:

中期: 5年~15年

長期: 15年~30年

継続的・持続的な取組

地区	戦略		施策	取組内容	取組時期				
					既存	短期	中期	長期	
外港地区	戦略1	日本海側国際海上コンテナ輸送拠点機能の拡張	新規航路・泊地の展開	・船舶の大型化への対応					
				・物流ゾーンと賑わいゾーンへの対応 (貨物取扱用地の沖合展開) (貨物船と客船の輻輳解消) (第1航路と第2航路の重複解消) (新規「航路・泊地」の確保)					
	戦略2	バルク輸送拠点機能の再編		・タグボートのサテライト基地整備等、船舶受入機能の強化					
				・インフラの維持管理の効率化				継続的・持続的な取組	
	戦略3	フェリー・RORO船輸送拠点機能の集約		・航行安全性(ハード・ソフト)の確保					継続的・持続的な取組
				・残土処分用地の確保					
	戦略4	海上アクセス拠点機能の強化							
	戦略6	国土強靱化を支える機能強化							
戦略7	環境先進港湾機能の強化								

施策の展開方向

交通施策の展開方向

短期: ~5年

中期: 5年~15年

長期: 15年~30年

継続的・持続的な取組

項目	戦略		施策	取組内容	取組時期			
					既存	短期	中期	長期
交通	戦略1	日本海側国際海上コンテナ輸送拠点機能の拡張	人流・物流に対応した円滑な道路交通網の確保	・境港—米子間の高速道路の整備				
	戦略2	バルク輸送拠点機能の再編		・境港—島根間の道路網の整備				
	戦略3	フェリー・RORO船輸送拠点機能の集約		・公共交通機関等を利用した域内交通体系の構築				
	戦略4	海上アクセス拠点機能の強化		・災害時道路網の確保				
戦略6	国土強靱化を支える機能強化	・境港BCPIにおける除雪対応の位置付け						
戦略7	環境先進港湾機能の強化							